

# やまびこ

第110号

平成27年 3月



公益財団法人 **八正会**

## 巻頭言

### 「例外をつくるな」

理事長 落司量則

今年の正月、高校の同窓会に出席した。高校を卒業して五〇年近くなるが参加するようになったのは三年位前からである。毎年一月三日に開催されるので遠方の私はなかなか参加できないでいた。

私の母校は当時の新設校であった。いわゆる「団塊の世代」(第二次世界大戦後の昭和二十二年〜二十四年生まれで約七〇〇万人いて第一次ベビーブーム世代とも云う)が大量に高校入学するというので全国に沢山の新設高校ができた。私は中学の担任の先生の勧めもあり、学区外の新設校を受験、入学した。当時大学受験を「受験戦争」と呼び、「四当五落」などと云う言葉が流行り四時間睡眠だと志望校に受かるが五時間眠ると落ちるなどと云われた。四時間睡眠では体がもたないが。

新設高校ということで先生方も身を粉にして指導頂いたし、我々生徒も良き伝統をつくるのは一期生の自分達との思いで頑張った。

授業は朝と午後の補習を入れて月々金は八

時限、夏休みも補習で殆どなかったという程であった。体づくりもしっかりということでも毎週金曜日は「団体訓練」と称し全校生徒が学校周辺を三キロぐらい走った。修学旅行はなく夏に一泊二日の登山、地元の伝統行事の五〇キロ行軍など、他校と違うユニークな取り組みも多かった。そんな高校生活の中で最も印象に残っている言葉が、初代校長がよく言われた「例外をつくるな」である。学生の本分は勉強であり一日たりとも怠ってはならない。体育祭の後でも五〇キロ行軍の後でも今日は疲れたから勉強を休もうと考えるな。ついつい自分を甘やかしがちになるのが人常だがそうならないようにと。私も忠実にそれを守り高校三年間勉強を休んだことは一日もなかった。そのおかげか、入学試験でピリに近かった成績は飛躍的に伸びた。大学は残念ながら第一志望校には受からず第二志望校への入学となったが、人生の中で最もよく勉強した三年間が社会人として四十数年働く中で原動力となって頑張れたと思っている。

# 新入会員の紹介

## 合格おめでとう！

4月より8名の高校生が新しい仲間として入会されます。  
温かくお迎えしましょう。



- ①植本 圭祐
- ②岡山市北区
- ③桑田中
- ④岡山朝日高校



- ①産本 龍
- ②赤磐市
- ③吉井中
- ④津山高校



- ①青山 公士
- ②備前市
- ③備前中
- ④岡山城東高校



- ①杉岡 大輝
- ②岡山市中区
- ③岡山操山中
- ④岡山操山高校



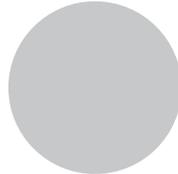
- ①三宅 竜矢
- ②岡山市南区
- ③灘崎中
- ④岡山東商業高校

## プロフィール

- ①氏名
- ②現住所
- ③出身校
- ④入学校



- ①佐伯 吏咲子
- ②岡山市北区
- ③高松中
- ④岡山操山高校



- ①小竹守 花恵
- ②赤磐市
- ③高陽中
- ④岡山一宮高校



- ①小西 菫
- ②倉敷市
- ③東中
- ④倉敷古城池高校

# 目次

巻頭言	理事 長	落 司 量 則	
新入会員紹介	理 事	南 智 1	
志を立てて以て万事の源と為す……	〃	岡 征二 郎 2	
書くことは考えること……	〃	木 田 杏 奈 3	
高校三年間……	〃	小 西 茜 4	
高校生活を振りかえって……	〃	片 山 遥 5	
希望を胸に……	〃	難 波 千 里 6	
大学生になってやりたい事……	〃	影 山 姫 花 6	
三年間振り返って……	〃	久 富 聖 也 7	
相棒……	〃	小 野 雅 史 8	
支えられた三年間……	〃	井 上 法 子 9	
センター入試を終えて……	〃	小 野 龍 司 10	
集大成……	〃	清 水 晃 希 11	
はやすぎた高校三年間……	〃	日 名 絵 里 華 11	
慢心ではなく自信を持って……	〃	笠 笑 太 12	
感謝……	〃	小 林 桂 子 13	
大切な出逢い……	〃	小 林 遥 14	
卒業ということ……	〃	萩 原 萌 14	
高校生活を振り返って……	〃	濱 田 恵 理 香 15	
目標……	〃	檜 原 大 毅 16	
三年ゼロ学期……	〃	河 本 柚 月 16	
風呂敷・イズ・ジャパニーズカルチャー……	〃	松 村 優 18	
今年の抱負……	〃	水 川 碧 19	
吉田松陰と「狂」……	〃	佐 伯 拓 馬 20	
高校二年間を振り返る……	〃	高 橋 聖 21	
デニバーパレード……	〃		

三年生〇学期……	〃	蘆 原 薫 21
あとちよっと……	〃	黒 住 美 恵 子 22
大好きなバンド……	〃	宇 野 美 咲 22
最近思うこと……	〃	安 井 佑 果 23
部活と勉強……	〃	三 宅 晟 24
二〇十四年と二〇十五年……	〃	藤 原 淳 平 25
二年生を振り返って……	〃	酒 井 彩 夏 26
努力が報われるとき……	〃	岩 田 真 央 27
姉……	〃	合 田 紗 也 28
新人戦を終えて……	〃	吉 川 智 也 29
二年生零学期、高一の冬に思うこと……	〃	井 上 真 実 29
先輩との最後の試合……	〃	名 田 怜 央 31
「国語力」で乗り切れ！……	〃	守 時 優 里 32
部活動……	〃	濱 田 実 苗 33
高校生活一年目を振り返って……	〃	小 林 陽 一 郎 33
新たな発見……	〃	藤 原 淳 美 34
一年をふりかえって……	〃	栗 山 恵 輔 35
初めての定期演奏会……	〃	影 山 都 花 36
飼っている犬について……	〃	吉 川 朋 之 37
Restart……	〃	熊 谷 舞 佳 38
一年を振り返って……	〃	檜 原 勝 也 39
無駄遣い……	〃	黒 田 尚 輝 39
変化……	〃	戸 田 智 和 40
近況報告……	〃	大 西 智 和 41
お便りコーナー……	〃	
編集後記……	〃	

## 志を立てて以て万事の源と為す

理事 南 智

志を立てることからすべては始まるとする吉田松陰の言葉である。

吉田松陰は江戸時代末期の長州藩の藩士で、思想家・教育者・兵学者であり、明治維新の精神的指導者であった。諸君も承知の通り、松陰が主宰した松下村塾は、久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・山縣有朋など、明治維新の大人物を輩出した。

松陰の知行合一の生き方・構えは、千歳万古不滅の活気を持つていると言えよう。彼は十七歳のとき、志の大切さを友人に次のように説いている。

「進む道が正しいか正しくないか、学問や仕事がかうま  
くいくかいかないか、それは、志を立てたか立てな  
かったかにある。だから、士たるものは、その志を  
立てねばならない。志があればやる気もついてくる。  
意気込みがあれば目標が遠くにあつてもたどり着け  
ないことはなく、難しく出て来ないということもな  
い」

必ずやれるという志がなければ、事は成し遂げられないと強調しているのである。

松陰の名言は、本やインターネットによつて容易に知ることが出来る。この際指摘しておきたいのは、その活動の根底に深奥な学問があつたことである。また、「書く」ことを大変重要視していたといわれる。松下村塾の塾生たちに、読書に費やす時間の半分を、そのメモに費やすよう指導するとともに、自分が塾生に話す際も、話の内容を書いているいちいち渡したとされる。

吉田松陰の名言を、もう一つ紹介しておこう。

- 一つ善いことをすれば、
- その善は自分のものとなる。
- 一つ有益なものを得れば、
- それは自分のものとなる。
- 一日努力すれば、
- 一日の効果が得られる。
- 一年努力すれば、
- 一年の効果がある。

(元ノートルダム清心女子大学教授)

## 書くことは考えること

理事 岡 征二郎

私が八正会の「やまびこ」に初めて投稿させていただいたのは、平成十四年九月号で、表題は「学び続ける人生」（学ぶことは楽しいこと）でした。内容としては、

①第四次臨時教育審議会の答申の中に「生涯学習体系への移行」が明記され、これまでの学校中心の学習から、人間が生涯を通じて学び、学んだことが社会の中で正しく評価される社会への移行が提起されたこと、

②平成十四年四月から週休二日制が導入され、子どもは地域社会の一員として各地域社会の中で自己実現を図る機会が与えられたこと、

③学びの要素として、「知識を学ぶ」、「技術を学ぶ」、「学び方を学ぶ」をあげたこと等社会の変化の激しさの一面を紹介したものでした。

それ以後の投稿内容は、「社会人基礎力」、「知識基盤社会」、「国際バカロレア」、「重症心身障害児の生活」、「身につけておきたい生活習慣」、「もうひとつの教育」、「各種随想」等々、投稿当時の話題の一部を紹介させていただきま

した。その時そのときに私が感じたり考えたりしたこと、又はインターネットや各種文献から情報収集させていただいて書かせていただいた文章を改めて読み返しますと、十年余りの短い時間の中で世界が激しく変動してきているのが見えてきます。知識基盤社会への移行がすこしずつ軌道に乗りつつあるように思われます。

私自身の生活を考えて見ると、社会の変化、教育・医療・福祉の変化、政治の移り変わり、諸外国との関わり方の変化等、世界のこれらの動きについていけているのだろうかとか、自分はこれらの動きに背を向けて生きているのではないかと考えるときがある。このような心理状態は精神の後退現象の一つではないかとも思う。

日本人の持つ手先の器用さ、優れた技術力、熱心な研究心、精神的な粘り強さ等の結果成果を挙げた各分野における各種の新しい技術・機械器具が今後、どのように便利な生活を実現するのだろうか。又、新たな技術革新が生まれ、その結果どのように便利な世の中になっていくのだろうか計り知れない。

自然科学は、その研究の対象をエネルギーや物質世界から生命世界の探求に転じ、ゆくゆくはその先にある精神世界の探求を志向することになり、方向転換を余儀なくされるのである。弛みなく成長を続ける現代社会の中であって、

目覚しい科学技術の進歩は、私たちに幸せをもたらしてくれるものと思う。科学とは、「自然現象についての、互いに関連しあう技術と経験的知識、及び理論の歴史的な累積体を発展させる前進的な人間活動である」と言われている。人間活動である科学の進化・発展により、いかに便利な世の中になっても、人としての心を忘れてしまっってはならない。

参考文献 「第三の核」を求めて

科学の歴史 下 渡辺 格 Newton Press

メイスン著 祐矢島 利訳 岩波書店  
(元旭川治療育センター児童院顧問)

## 高校三年間

倉敷古城池高校三年 木 田 杏 奈

一月も終わりにさしかかり、卒業も約一カ月に迫ってきました。そして、とうとう「やまびこ」の原稿を書くのも最後となってしまうました。今回は、私の高校三年間を振

り返ってをテーマに書こうと思います。

一年生では、これから別々の大学に進学した後もずっと仲良くしていただくろう友達に出会いました。悩んだとき相談してアドバイスをくれたり、親身になって聞いてくれたり、何気ない話をして一緒に笑ったり、ふざけあったりできる友達に出会えたことは本当に幸せなことだと思います。

二年生では、入部していた生徒会執行部で一年生の時よりも仕事が増えて、後輩を教える立場にもなりました。そこで、行事の運営をする上で責任感がさらに強まりました。

三年生では、体育祭の種目でデモンストレーションというクラス別のダンスがあつて、私は振りつけや衣装を作るチームでした。全て一から考えて作るのでメンバーと何度も意見の衝突がありました、その時に自分の意見を伝え、相手の意見も受け入れることの大切さを知りました。辛いことが多かったけど努力した分、本番の演技が終わった後は達成感であふれました。また、センター試験や受験では、よく「受験は団体戦」と言われるように自分のことだけではなく受験が終わった人も周りへの配慮がとても大切だと思いました。私自身、受験の前日にかげられた言葉やもらった手紙はとても嬉しく心強かったです。

最後になりましたが、三年間多額の奨学金と、さまざまな研修をさせてくださった八正会の皆様にはとても感謝し

ています。本当に三年間ありがとうございました。

## 高校生活を振りかえって

倉敷天城高校三年 小 西 茜

センター試験という大きなイベントが終わり、残す所あと一ヶ月と少しで卒業となりました。卒業していった先輩達が「高校三年間はあつという間だ。」と言うのを何度も聞いてきましたが、改めて実感しています。

私が高校生活で一番思い出深いのは、やはり東雲祭です。私は三年間パフォーマンスという部門で文化祭に参加していました。高校一、二年生の時はただ覚えて踊れば良かったのですが、三年生になると一から全て自分達で決めなくてはいけません。この仕事が想像を絶して本当に大変でした。私は踊りを考え、覚えるのと同時に衣装係でもありました。衣装係で特に苦労したのが予算です。最初に決めたデザインでは予算を大幅に超えていたので、そこからどう金額を減らすかと考え細かな金額表を作ることにとっても時間がかかりました。夏休み中の準備も大変でしたが、夏休

み明けの下級生に教える時期になるとさらに大変でした。当然、三年生は皆受験生なので全員が朝早くや、休みの日の少しの時間など、短い時間を活用して進めました。そして迎えた本番の日。結果は第二位でした。優勝できなかったのは残念でしたが、総合の部で三年生が文系のクラスが一、二位を独占!!!という異例の結果を残せたので満足でした。また、今年から文化祭と体育祭を連続で行うという初めての試みをした年でした。初め聞いた時は「最悪」と思っていたのがやってみると大盛り上がりでした。私達が連続東雲祭の初の学年になれて本当に幸せです。

私は中学から天城なので東雲祭は六回経験しましたが一度も飽きることがなかった最高のイベントです。あの学校が羨ましい…、あの学校だったら良かったのに…と思った事はありました。三年間を振りかえってみると天城に入学して幸せでした!!!そして高校生活を支えてくださったトインボ会社、八正会の役員の方々、有難うございました。本当に感謝しています。また、OGとして参加した時はよろしく願います。

## 希望を胸に

倉敷古城池高校三年 片山 遥

私は一月十七日十八日に向けて全力疾走していたつもりでした。やはり、終えてみると、どれだけ頑張っていたとしても後悔は少し残るものですね。しかし、この二日間であり得たことはありました。「疎外」と「孤独」です。この二つの言葉について話をしたいと思います。

「疎外」

広辞苑によると二つの意味が出てきます。一つ目は「うとんじ、よそよそしくすること」。二つ目は「資本主義において、人間関係が主として利害打算の関係と化し、人間性を喪失しつつある状況」。私がセンター試験を経て、知り得たのは後者の「疎外」です。分かりやすく言い換えると、「センター試験において人格が無視され、点数が一人歩きする」ということです。どれだけその人が優しかろうとも、どれだけ慈悲深かろうとも、どれだけ素晴らしい人格を持っていたとしても、センター試験の点数で一時的ではあります、その人の価値が決定してしまふ。これは本当に恐ろしいことだと感じました。しかし、悲観的になる必

要はありません。点数が出るといふことは、その瞬間、自分自身から点数が切り離されるということ。重要なのは、自分以外の何かが判断したものを客観的に見つめ、自分が今何をすべきか考えることだと思います。

「孤独」

そんなに悲しいものではありません。人は生まれたときから死ぬまでずっと孤独です。「私には親友がいるから孤独ではない。」と思う人も多いのではないのでしょうか。私もそんな風に思っていたときがありました。よく考えてみてください。同じ日の同じ時刻に同じ病院の同じ母親から生まれてきた親友はいますか？おそろくないでしょうか。同じ日の同じ時刻に亡くなる親友はいると思いますか？おそろくないでしょう。つまり、どれだけ大切に唯一無二の親友がいても人間は孤独であるということです。それならば何をすべきか。「孤独と友達になろう！」

これが私の三年間の全てです。時の流れというものは非常に速く、いつの間にか女子高生ブランドが失われていくんだなあとしみじみしております（笑）

最後に、八正会の多額の奨学金のおかげで、素敵な高校生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

# 大学生になってやりたい事

岡山城東高校三年 難波千里

## ①ヨーロッパの地域に留学

私は小さい頃から、フランスのオシャレな街に憧れを持ち、イタリアン料理がすごく好きです。だから、自分での地に行つて体で何かを感じ取りに行きたいです。また、私は世界中のあらゆる人々から様々な話を聞きたいと思っています。だから、多くの言語を学びたいとも思っています。

## ②自分のベストブックを探す

私は本を読むことが大好きです。しかし、高校生になると、部活や勉強に忙しく本を読む暇がなくて読みたいのを読めていませんでした。だから、大学生になったら人に自信を持って紹介できるような、私のベストブックを見つきたいです。

## ③趣味を見つける

ダーツとか車とか、ビリヤードとかワインとか：沢山挑戦してみたい。かっこいい趣味を見つけないかと思っています。また、同じ趣味を持つ人と語り合いを試してみたいです。

## ④ネコを飼う

ネコが好きです。ネコに癒されたいです。白か黒のネコを飼いたいです。

：まずは大学生になれないとこの、大学生になってやりたい事は叶えられないので、昨日センター試験が終了し、明日からは二次試験の勉強が始まるので、悔いのないよう精一杯頑張ります。

## 三年間振り返つて

山陽女子高校三年 影山姫花

八正会の皆様、三年間多額の奨学金をありがとうございました。そして、八正会では様々な経験をさせて頂き自身も成長できたと思います。

部活で忙しく行事にはなかなか参加できませんでした。三年生の夏期研修に参加できたのは私の一番の思い出です。デイベートとか班の出し物とか初めてで大変な部分も多くあったけど同級生や後輩が支えてくれて嬉しかったです。

八正会では人前で話す機会が多く初めの方は緊張して嫌

だったけど何度もやっているうちに慣れることができた。

さらに、自分の意見を人に伝えることもできるようになった。私の行く大学では人前で発表するというのが多いそうなので活かしていきたいと思う。

大学では英語の勉強に力を入れたいと思っっているので英文科を専攻した。そして、将来は英語を活かした仕事に就いて何か世の中の役に立てる人になりたい。

高校三年間は今となったらあつという間に終わったなあと感じる。そして、いろんなことがあつた。部活がしんどくて辞めたいこともあつたし、学校で友達とふざけ合つて大笑いしたり……。今思えば全て良い思い出と思える。あとは、たくさんの人に支えてきてもらったんだなあと思う。高校に通うことができたのも母や八正会さんのおかげだし、毎日普通に生活できるのは家族のおかげだし、楽しく生活できるのは友達や家族のおかげだしいろんな人に感謝しないといけないなあと思う。

これから毎日の当たり前前のごことに感謝していきたいし、いつか恩返しできたらいいなと思う。あと、八正会や学校などで学んだことを活かして大学でも頑張っていきたい。そして、自分の将来を良いものにしていきたいと思う。

## 相棒

岡山朝日高校三年 久 富 聖 也

僕はいま部活はもちろん引退しているし、学校祭も終わっているし、あと高校で残っている行事で思いつくものといえば、入試です。

そこで今回は入試に関することを近況報告として提出しようということをもまず考えました。しかし、入試について書くといつても特筆に値するようなこともなく、ありきたりな原稿になってしまいそうだったので、それはやめました。では何か別のことでありきたりでないことがあるのだなと期待させてしまうかもしれませんが、その期待に応えられるという自信はあまりありません。

僕の文章が「やまびこ」に掲載されるのはおそらくこれが最後だと思うので、この機会に、今まで触れなかった僕の相棒について書きたいと思います。

「相棒」といつても残念ながら僕が相棒と一緒に難事件を解決するわけではありません。しかし僕の高校生活を彼無しに語ることは出来ません。僕と彼は学校に行くときは必ず一緒でした。彼と一緒にいると目立ちます。彼は僕の

トレードマークみたいな存在です。彼と一緒にでないときは学校の先生に心配される程でした。「何故今日は帽子かぶってないの？」と。

前の一文でお分かり頂けたかと思いますが、僕が言う「相棒」とは学校の角帽のことです。

角帽は入学直前の物品販売や購買で購入できるのですが、購入は強制ではなく、おそらく記念品程度の物としてだと思います。では何故僕がそれをかぶって登校しているのかというと、買った使わないもつたいないという単純な発想からですが、帽子を三年間かぶり続けることが僕の高校生活に大きな影響を与えたのは確かです。

帽子をかぶっていると、色々な場所で卒業生の方に話しかけられ、応援してくださいと、学校でも、先生には何故か褒められたし、帽子をきっかけにたくさんの生徒が話しかけてくれたし、他にも色々な良いことが起こりました。

僕は制服を着ているときはいつも帽子と一緒だったので、二年生のときに一度帽子を紛失するという失態をおかしてしまったことがあります。それで前述の通り先生に心配されたわけです。そのときに僕はやむを得ず購買で新しい帽子を購入しました。(ちなみにそのとき購入した帽子は、普通に売られているのとは違う、現在製造中止の高品質な帽子を特別に売ってくれた物です。)その数日後に

一つ目の帽子は見つかりました。とても嬉しかったのを覚えています。

僕にとって二つの角帽はかけがえのない相棒です。

他にも紹介したいことがたくさんあるのですが、これ以上長い文章は僕は読む気がしないのでこの辺で終わりにしたいと思います。

最後になりましたが、僕に多額の奨学金や貴重な機会を給付してくださった八正会の皆様、僕に関わってくださいました皆様、今の僕がいられるのは皆様のおかげです。とても感謝しています。本当にありがとうございました。

## 支えられた三年間

岡山芳泉高校三年 小野雅史

この三年間、振り返ってみると、僕は本当にたくさんの人と出会い、その人達に支えられてきたと思う。その中でも、やはり芳泉高校で一緒に時間を過ごした同級生や先生方の存在は大きい。卒業を控えたこの時期になって改めてこの学校でこの人達に出会えて幸せだったと思う。

先日のセンター試験前々日に決起集会というものがあつた。そこでは、各地の神社に行つて合格祈願をしてくれたという先生、自分の言葉で真つ直ぐに応援してくれた先生、最後まであきらめると鼓舞してくれた先生などそれぞれ先生の思いが伝わり、最後には三年団の先生全員が応援団のように「フレ、フレ、芳泉」と応援してくれた。

翌日には会場の下見に行き、そこで会つた何人かの友人と「頑張ろうな」と声を掛け合つた。こんな素敵な先生や友人達のためにも頑張ろうと思つた。そして、センター試験当日、先生や友人達のエールのおかげで、結果は別としてあまり緊張することもなく、一教科ずつ集中して取り組むことができた。休み時間も友人や先生に会つて話をすると、ホツとして受験は団体戦であることを痛感した。

このようにセンター試験は無事終わったのだが、息もつかぬ間に二次試験という二つ目の山が目の前に迫っている。後悔がないように諦めず精一杯頑張つていきたい。

最後になりましたが、八正会の皆様、今まで本当にお世話になり、ありがとうございました。八正会で学んだ多くのことを活かしてこれからも生活していきたいと思ひます。

## センター入試を終えて

倉敷古城池高校三年 井上法子

気がつけば、もう二月。一ヶ月後にはもう卒業です。センター試験を終えたばかりで、次に向けての勉強で忙しい毎日、卒業といつてもあまりピンときません。今回は、先日行われたセンター試験を通して私が感じたことをお話しします。

私には部活を引退してからセンター試験まで毎日一緒に勉強している友人がいました。放課後には遅くまで学校で勉強をし、休日には図書館に一緒に行きました。仲間でもあり、一番のライバルでいてくれた友人は私にたくさん刺激を与えてくれました。お互い挫けそうな時は励まし合ひ、結果が出てきた時には自分のことのように喜び合ひました。私を支えてくれたのは友人だけではありません。親身になって相談にのつてくれた先生、陰でサポートしてくれた家族、たくさんの方の存在があったからこそここまで頑張つてこれました。センター試験を通して周囲の人の存在の大きさを感じました。

四月からは大学生。多くの人と新たな出会いがあると思

います。その出会いを大切にし、周囲の人への感謝を日々忘れずに過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、三年間多額の奨学金や、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。あとわずかとなった受験生生活、悔いの残らないよう頑張ります。

## 集大成

岡山工業高校三年 小野 龍 司

昨年は、私のバスケットボール人生の集大成の年でした。岡山工業バスケットボール部の私たちの代は例年に比べて人数も少なく、上手い人が少なかったもので、全国大会に行くのは無理だろうと言われていました。インターハイ予選では、今まで積み重ねてきたことを全力で出し切りました。準決勝で負けてしまい、ここで三年生のメンバーの半分が引退しました。私は引退はせずに残りましたが、就職試験があったのでインターハイ予選が終わってから就職試験が終わるまでは、ほとんど部活に行くことができず、復帰

したときに身体がとてなまっついていて身体を元に戻すのにとても苦労しました。そして迎えたインターカップ予選ですが、順調に勝ち上がり決勝まで行くことができました。そして決勝では商大附属とやり、とても厳しい試合でしたが何とか勝つことができ、インターカップと冬の全国大会に出場することができました。そして個人的には、少年男子のバスケットボールの岡山県代表選手にも選ばれ、長崎国体にも出場しました。しかし、こうして積み上げてきた全てのものを発揮する集大成の舞台が全国大会というのはとてもうれしいことだと思いました。全国大会では二回戦で負けてしまいました。岡山工業バスケットボール部で本当に良かったと思っています。そしてここで私も引退して、小学一年生から始めたバスケットボール人生も終わりました。もう本気でバスケットボールをすることは無いと思うけど、このスポーツをやっている本当に良かったと思っています。

## はやすぎた高校三年間

倉敷工業高校三年 清水 晃 希

気づけば高校三年の冬になりあと少しで社会人になってしまいます。三年間は長いようで短いという意味が今になってようやく感じていきます。それだけ高校三年間が充実していたということで、まだ学生をしたいという気持ちもあります。しかし時間は待つてくれません。残りの期間で社会人になるという気持ちに切り換え、心の準備もしつかりしなければいけません。そういった意味でも気持ちを引き締めることが大事だと思います。

さて、高校三年間を振り返ってみると僕は本当に友達にめぐまれていると感じています。困った時に頼れる友達。悩んでいる時に相談できる友達。あたりまえにいた友達が遠くへ行ってしまうのは本当に寂しいです。毎日が本当に楽しくてみんなと笑っている時は嫌なことも全部忘れさせてくれます。そんな友達をもった僕は本当に幸せものです。残りの高校生活を残している人達には本当に一日一日を大事にしてほしいと思います。そして一つでも多くの思い出をつくってほしいです。高校生活で後悔だけはしてほしく

ないです。その中で勉強や部活やバイトをがんばってくださいね。

## 慢心ではなく自信を持つて

岡山朝日高校三年 日 名 絵里華

まず初めに八正会さん、三年間多額の奨学金を下さり本当にありがとうございます。

さて今回はセンター試験という一つの節目を終え、二次試験に向け自戒の念も込めて何か目標があるときの気持ちの有り様について書きたいと思います。形而上の言葉で「病は気から」や「プラシーボ効果」など有名なものがあるようにやはり何事においても「気持ち」は重要で、最近ではある程度科学的にも証明されてきました。何か目標があるときの気持ちの有り様といってもそんな難しいものではなく皆さんの想像がつく通り「自信を持つてポジティブに！」というだけのことです。しかしここで大事なのが自信と慢心、ポジティブとオプティミズムとは違うということです。又、例えば大学合格が目標であるときに「受か

りたい」と思うのではなく「自分は受かる」や「受かった」などのように思ったほうが実現する可能性が高くなるという話を聞いたことがあります。これは「受かりたい」では心のどこかで、受からないかもしれないと思っているからだそうです。

気持ちの有り様とは少し話がそれるのですが、「言霊」という言葉を知っていますか。「言霊」とは言葉に宿っている霊的な力の意で、ある言葉を発するとその言葉どおりのことが実際に起きるといふ考え方もこの言霊への信仰によるものです。

ここまで書いたことはあくまで目標を達成するために精一杯の努力をした後の最後の神頼みぐらいに思ってください。努力しなくとも目標を達成できる、と思うことは慢心でありオプティミズムです。それと目標とは大学合格などの大きなものでなくダイエツトなどでも効果はあると思います。

では、皆様の志望校合格を心よりお祈りしています。

## 感謝

岡山芳泉高校三年 笠 笑 太

受験生真ただ中です。能動的に勉強することがとことん苦手である僕にとつてこのシーズンはきついものです。

それもあと約一ヶ月の我慢、燃えつきてやろうと思います。

さて、今まで勉強や部活など様々な自分への試練を乗り越えられるよう努力し、苦労したのは確かに自分ではあります。乗り越えるのに必要な知識、技術、環境を作り出したのは自分だとは必ずしも言うことができませぬ。そうなってくると、自分のがんばってこれたことの根底にはいつも先生、親、友達がいて自分にとつて欠かせないものだと卒業までわずかとなった今日この頃、改めて思うようになります。そして最後に絶対忘れてはいけないのは、この八正会です。金銭面に加え、人としての大きさや質の高さを大きく向上してくれたことは、自分の高校生活三年間における「成長」については最も必要因だと思えます。

このようにたくさんさんの恩恵を受け続けて今の自分があるわけで、その恩恵に見合った自分の目標をかなえることで恩返しの一部としたいと思います。ということは：

勉強ですね。がんばります：

## 大切な出逢い

創志学園高校三年 小林 桂子

このやまびこの原稿を書くのも、今回が最後です。三年間本当にあつという間でした。高校卒業も間近に迫り、何もかもが終わりに向かっていて少しさみしい気もしますが、最後まで笑顔で何事も楽しみたいと思います。そんなことを考えながら作文を書いている今、私はインフルエンザに感染してしまい出席停止中です。予防接種をしていたにも関わらず感染してしまいました。気のゆるみの表れですかねー。本当に情けないです。もう進路が決まっているのが不幸中の幸いです。

さて、本題にうつります。私はこの三年間でたくさんの人と出逢いました。高校の友達・先生、八正会の友達・先輩後輩、実習先の患者さん・看護師さんなど高校生という多感な時期に様々な方とふれあう機会に恵まれました。その中で特に大切にしたいと思う人達について書きたいと思

います。

まずは高校の友人についてです。私はいつも昼食を四人の友人と一緒に食べています。その四人とは高校一年生のときからずっと仲が良いです。私を含めて五人は、それぞれ趣味が全く違うのですが、なぜかぶつかり合うこともなく本当に不思議な人たちです。この四人とは、あと二年同じ学校に通えるのもっと仲を深めていきたいです。また同じ夢に向かっていている仲間として大切にしていきたいと思っています。

次に八正会の方についてです。三年前の四月にあった入会式のことには今でもはっきり覚えています。初めて皆さんを見て思ったことは「頭が良さそう！」です。バカな私が本当にここに居ていいのかと心の中はパニックでした。しかし、同級生も先輩方もフレンドリーな人が多くて安心しました。年に数回しか会わない仲間ですが、今では勉強や恋愛のことまで話せるようになりました。卒会後も三ヶ月に一回くらいは連絡をとり合いたいと思います。

最後になりましたが、三年間、多額の奨学金と内容の濃い研修会をありがとうございました。心より感謝申し上げます。

## 卒業ということ

岡山城東高校三年 小林 遥

やまびこの原稿を書くのも今回で最後なわけですが、全く卒業するという気がしません。中学校のころは三年間やたら長かったように感じましたが、高校は本当にあっというまでした。

とはいえ今は受験勉強真っ最中なので、大学はまだまだ遠いです。今日丁度センターの判定も帰ってきましたが、そっちも遠いです。二月末に前期試験があるのですが、それを知った三年生の初っぱなは、もっと早く終わってくれと思いました。センターを終えた今ではあと二倍の時間が欲しいです。

ですが、高校三年間で勉強に対する比重はそんなに高くありませんでした。(だから今こんなにピンチなのか...) 思った以上にいろいろあった、楽しい三年間でした。この高校でなかったら今と全然ちがう自分だったろうなと思います。大学でもいろんな経験ができるように、あと一ヶ月頑張ります。(この作文がやまびこに載る頃にはもう大学決まってるんですね... 恐ろしい!!)

最後に、三年間研修などを通していろいろな経験をさせてくださったこと、また多額の奨学金をいただいたことについて、八正会の役員の皆様には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

## 高校生活を振り返って

就実高校三年 萩原 萌

初めに、八正会の研修にあまり参加できなかったことを残念に思います。そして、奨学金の援助や活動の支持をしてくださったことを深く感謝しています。

私は中高一貫でしたので、それほど友人関係が変化したりはしませんでした。ただ、中学で積極的に参加した部活では少し親しい友人が増えた気がします。

さらに高校生になってからは、二回ほど海外研修に行くことが出来ました。一回目は学校で募集しているもので、そこではカナダで二週間ホームステイを経験させてもらいました。ここでは英語で意思疎通をとることの難しさや、異文化さらには学年を越えての交流など、多くのことを学

べました。特に印象深かったのは、お母さんにこいのぼりについて話そうとしたとき、あまりうまく伝えることが出来なかったけれど、紙に絵をかいたりジェスチャーをうまく使ったりすることで、(なんとなくかもしれないけれど)うまく伝えることが出来ました。

二回目は学校の修学旅行でシンガポールとマレーシアに行きました。シンガポールでは一日ホームステイだけで終わりました。そこでは民族衣装を着せてもらえました。また、ユニバーサルスタジオシンガポールに行きました。そこで、少し困ったことにありました。それは、日本のロッカーの使い方と向こうの使い方が異なっていたことです。その為置いていた荷物が取れなくなっていました。しかし、従業員に説明し先生に状況を伝えることで解決することが出来ました。マレーシアではチョンカーなどのゲームをして、現地の子とも交流を深めることが出来ました。最後に、このような貴重な経験をする事が出来たのは、家族の協力はもちろんのこと、八正会の皆様の協力があったことです。三年間本当にお世話になりました。いつになるかわかりませんが、このご恩を返していけたらと思います。

## 目標

岡山朝日高校二年 濱 田 恵理香

私は高校に入学してからダンス部に所属し、総文祭や地区別など多くの行事に参加してきた。たくさんの思い出の中で一番深く心に残っているのはミスダンスドリルという大会である。全国大会出場という目標を掲げて二年生全員で日々練習に取り組んだ。構成での意見のぶつかり合いやとても厳しい基礎練など精神的にも体力的にも大変なことばかりだったが、みんなで力を合わせて地区予選を突破することができた。全国の舞台で踊ったことは貴重な経験となり、得るものは自分にとってとても大きかったと思う。

たくさんの事を学ぶ場となったダンス部を引退した今、私は新たな目標に向かっていく。部活を優先して疎かにしがちだった勉強を頑張らなければいけない。あつという間に過ぎてしまう時間を有意義なものにしたいと思う。受験生となる自覚をもって悔いの残らないよう努力していく。部活で得た経験を生かして基礎から強化し、自信をもって目標を達成できるように頑張ると心に決めた。

目標とするものは違っても、達成するために必要なのは

どれも根気だと私は考える。途中で投げ出すことなく、辛抱強く続けていくという気力だ。私はこの根気というもの部活を通して培うことができたように思う。これから出会うであろうとてつもなく大きな壁にも諦めることなく立ち向かっていきたい。

## 三年ゼロ学期

瀬戸高校二年 檜原大毅

僕はもう高校二年生。高校生活も半分を過ぎた。認めたくはないけど今年から受験生。大学受験は高校受験と違って、想像するだけで難しく感じる。まだ分からない事ばかりで不安でいっぱいです。

そんな中この前の始業式で先生が言っていた言葉があります。その言葉は「二年生の三学期は三年生のゼロ学期」というものがありました。僕はその言葉を聞いてもうそんな時期なのかとふと思いました。二年生の三学期はもう受験に向けて三年生の準備をするという意味です。

僕は今、特にこれがやりたいというものが決まっていま

せん。その事もあり今はちょっと焦っています。しかし最近予備校の先生が「今から少しずつ一年後の受験をイメージしていればよい。」と話していました。データで見ると大学の合格率は今から始めるのと三年生の部活を引退してから勉強を始めるのでは大きな差がありました。それは何を意味しているかと言うと受験勉強は、今の二年生の時期から意識してコツコツと復習などをしていけば成功するということです。

今の僕は部活が少し優先している部分もあるので普通科の高校の掲げている「文武両道」という言葉のもと、学業と部活をバランスよく励んでいきたいと思えます。

## 風呂敷・イズ・ジャパニーズカルチャー

岡山一宮高校二年 河本柚月

私は風呂敷が好きです。柄もバラエティー豊かで用途も星の数（ただしマンガを包むと表紙が透けるのでオタクには不向き）、良い点を挙げるとキリがありません。薄い布を使ったものでも意外に丈夫な点と、かさばらないのに大

きなものを包むことができるという点は是非ともお伝えしたい美点です。

風呂敷の誕生は遡ること平安時代末、「ひらつづみ」と呼ばれたものが始まり。その後もなんとなく生活にとけこみ、江戸時代の銭湯ブームにて大ブレイクしたのでした（ブリタニカより。文章は換言）。

「銭湯行くのに荷物多いわね」

「そうね、そのまま持つて行くのもちょっとねえ……何か気の利いたものないかしら？」

流行好きの江戸っ子の前に颯爽と舞って来たのが風呂敷だった、と思ってください。だいたいこんなかんじ（半分は想像）で我らが風呂敷は銭湯の朋友として見事ブームに便乗したのです。この時、使用する場所、お風呂から「風呂敷」と名前がついたそうです。用途もわかりやすく名前も覚えやすい——江戸っ子はさすがですね。

さて、銭湯ブームから約二百年、なんやかんやあつて「便利グッズ」というポジションを死守してきた風呂敷。遂にビニール袋やエコバッグに立場を奪われ、ついには本職である「銭湯の友」さえトートバッグらにとつてかわられてしまいました。今ではすっかり、「風呂敷くらい知ってるよ、使ったことないけど（笑）」レベルの扱いです。修学旅行でお風呂セットが風呂敷包みだと友達から「珍し

いね」と言われます。一昔前は！珍しくなんてなかったのに！いくらかつての栄光を叫んでもその隆盛が戻るわけはありません。そこで私は、風呂敷PRを行うことにしました。言うより実行です。嘆くより布教——もとい普及活動です！

私が風呂敷を使うと、友達は決まって「どうして使ってるの？」と尋ねます。そこで私が風呂敷の良さをとことん語ると、みんなひかえめな人なので「そ、そうだね。風呂敷は便利だよね……でも（以下略）」とかたい笑顔を見せられます。彼女らの反応を見れば、使ったことがない人も風呂敷の良さを知ることがわかります。良さがわかっているのにどうして使わないのか——それは風呂敷を持つていないからではないのか、と私は考えました。

そういえば風呂敷ってどこで買うんでしょう？とりあえず明日、百均をチェックしに行ってみます。ちなみに私風呂敷はゆずってもらったはずですが……誰から……。でも風呂敷は言うなればただの布ですから、誰にでも自作ができます。ならば私がするべきことはただひとつ！思わず風呂敷を作りたくなるような「あいうえお作文」を広めることです！気合い入れて考えるぞ！！

「ふ…ふがいなくて

ろ…ろくでもない自分



れがどうしてもその日のうちに終わらせることができません。結局、どんどん後回しになり、計画を立てても無意味だと思ってしまう。そうなることは計画を立てることすらも諦めてしまいました。そうなることの原因は主に睡魔と誘惑につけ込まれる自分の弱さにあります。だから自分にプレッシャーをかけて、もう一度だけこの一年間の勉強の計画を立てようと思います。

二つ目は受験太りしないことです。高校受験の時に受験太りの恐怖を味わったのもうその二の舞にはなりたくないです。お菓子を食べながら勉強、いわゆるながら勉強にはとっても気をつけたいです。

最後になりましたが、高校生活、八正会も残り一年、どうぞ今年もよろしく願います。

## 吉田松陰と「狂」

岡山県立倉敷天城高校二年 水川 碧

皆さんは今年の大河ドラマをご存知ですか？今年は幕末の激動の時代を生きていく維新の志士たちを描いた『花燃

ゆ』です！その主人公、杉文すぎふみはかの有名な松下村塾を設立し多くの弟子を育てた吉田松陰の妹です。彼女を中心に物語は進んでいきます。

私は以前から幕末の歴史がとても好きで、関連する小説なども読んでいます。けれども吉田松陰については、私が新撰組サイドなこともあり知りませんでした。そこで、この大河ドラマをきっかけに「吉田松陰」という人物について調べてみました。

吉田松陰は長州藩の武士であり、非常に優秀な人でした。彼は、欧米列強諸国の脅威にさらされている日本の未来を危惧し日本を変えようとし、その思想を松下村塾で教えました。しかし最期は安政の大獄で死刑となる、というのが私の知っている松陰です。そんな彼は実に行動的で、悪く言えばかなり過激な人物でもあったようです。学問の為に下手をすれば死罪となった脱藩、ペリー率いる黒船への密航未遂など……。ともかく無茶なことをしていた松陰には数多くの名言がありますが、その中で私が気になったのは

『諸君、狂いたまえ』。

初め見た時はその奇天烈な内容に「は？」と思ってしまいました。改めて見ると非常に松陰らしいなと。現状に満足せずひたすら邁進し「常識」というものをまるで気にす

ることなく生きる。確かに「狂っている」と言えるのかも知れません。しかし、「狂え」と言う位だから自分が狂っていると思っていた訳で…。本当に狂っている人はそんな事は言えないんじゃないかとも思っています。

ともかく言えることは本当にすごい人なんだということです。松陰が高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文などの弟子を育てたことを考えればやはり普通の人ではないですね！常識にとらわれることなく自らの信じる道を進み続けた吉田松陰。そんな彼の人生をこれからも彼の妹の文ちゃんと一緒にドラマで辿っていきたいと思います。皆さんもご覧になって彼らと共に「狂って」みませんか？

## 高校二年間を振り返る

岡山操山高校二年 佐伯 拓馬

気づいてみると受験まで一年、部活では、二世代の先輩たちを見送って来ました。高校野球をできるのはあと半年ほどとなり、今はケガで部活動に参加できません。そんな自分を情けなく思います。長引くようなケガではないので

まだ良かったのですが、皆さんにはこんな思いは味わって欲しくない。ましてや、後悔などしてほしくありません。

入学後のテストの順位は正直良かったです。しかし、部活と両方していくうちに、どちらもうまくはいきませんでした。伸びるどころか落ちていました。しかし、全くしていなかった訳でもなく、中途半端なまま一年を終えました。二年の一学期に調子が良い部活に対して本格的となった勉強は悩んでいました。部活の楽しさで、部活の方に傾き始めました。今、二年生三学期となつて、苦しんでいます。

一年生のように取り戻すことはできません。時期的にも今しかない。そう思い、真剣に将来を見据えて、受験までの大体の計画を立てました。成功するかは分かりません。出来る限りやってみるだけです。

色んな人がいますが、やはり、受験勉強、将来の計画などは早ければ早いほど良いと思います。忙しい高校生にとって大学受験に関しては尚更でしょう。

今年からでもいいので大学受験などのために貯金ともいえる学習や努力やケガなどによる予防をしていきましょう。少しの時間でも毎日続けてやる方がたまにするよりもずっといい。高校生は忙しい。最後になりますが、多額の援助、他との交流の場を設けていただき、八正会の方々ありがとうございました。うごぎいます。

## デニーパーション

岡山工業高校二年 高橋 聖

## 三年生〇学期

倉敷青陵高校二年 蘆原 薫

少し前に、ビジュアルテクニクという授業でデニーパーションを行いました。デザイン科二年のクラスでクラス全員が一つ以上触りや形、印刷の仕方がおもしろいなと思った紙を集めました。あと先生が集めてくれたものを展示しました。デニのクラス四十人と先生が色々集めてきてくれたので、たくさんの紙に関係するものがありました。自分の知らないものがたくさんあって本当におもしろかったです、楽しめました。なかでも私が一番おもしろいなと思ったのは、「デザインのみきだし」という本です。この本は何冊かあるのですが紙の種類についてや紙の使い方、印刷の仕方などたくさん書かれていたりする本です。本当におもしろい本でした。他にも紙でつくられた財布、ペーパー加湿器、消臭カレンダーなど初めて見るものがたくさんありました。本当におもしろくて楽しかったです。

三学期がスタートしてから、学校の先生はみんな「ここがふんばりどころだ」「この〇学期が大事なんだ」と言い始めた。しかし、私は、そんなのいつも言ってるじゃん、また言ってるわあ：くらいに、軽くしか受け止めていなかった。

当然生活パターンを変えず、予習も度々手を抜く：なんてことをしていた。そんなある日の数学の時間だった。私はいきなり当てられて答えられなかった。だが、友達はいんな解けていて、いつも私と同じくらいのテストの点をとる友達でさえ、その質問の答えがわかっていった。あとから見直せばすぐ分かる、初歩的なステップがふめていなかった。

私は、いかに自分の今の生活パターンがよくないのかを理解した。私がテレビを見ている間にみんなは課題をきっちりこなし、私が早く寝ているときにみんなは予復習を漏れなくしていた。

私はその日から、基本的なことを確実にこなしていける

ように、少しずつかえた。今まで予習なんていらな思  
っていた教科でも、授業前に少し目を通すようにした。復  
習が苦手だから、家であるべくしなくていいように、学校  
の休み時間や放課後にして、家では確認するようにした。

すると、少しずつ授業に対しての理解度が上がりはじめ  
た。質問にも、少しは答えられるようになってきた。自分  
に甘くしすぎていることがよくわかった。これからも、こ  
のいい流れをこわさずに、勉強していきたい。

## あとちよつと

岡山芳泉高校二年 黒 住 美恵子

私は最近、部活ができるのもあと少しだなあと思います。  
六月頃には引退なのでもう半年をきっています。そう思う  
と部活で失敗しても尾を引かずにがんばろうと思うように  
なってきました。以前、顧問に「プレーに波がある」と言  
われました。できる時とできない時があるらしいです。確  
かに「今日はよく動けるな」とか「今日全然動けてない  
な」と感じる事はよくあります。けどそれは気の問題なの

かもしれません。何か失敗したら次の失敗を恐れて、余計  
失敗します。けれどそれはその日の後悔になります。なの  
で最近「失敗しても次でいい事をするぞ」と思って顧問  
に怒られても何くそと思いついてやっています。

「波がある」というのは私の場合、部活だけではなく、  
勉強もだなど気付きました。やる気が出るといっばいがん  
ばるのになんとなくタラタラしていると内容が全く頭に入  
ってきません。最近勉強の方が悪い波に乗ってきてしま  
っています。けど、大学受験まであと一年と思うと焦りを感じ  
ます。一年後の自分が「あの時波なんて作ってないで勉  
強すればよかった」と思わないようにこれからがんばって  
いこうと思います。受験まであと一年、部活引退まで半年  
もない、その中で波を作る自分とおさらばして、波を作ら  
ない新しい自分として遅ながらスタートしてみます。

## 大好きなバンド

岡山県立玉島高校二年 宇 野 美 咲

今回のやまびこは、私の大好きなバンドの話をしようにと

思います。

私は、Mr.Childrenが大好きです。最初はお母さんが好きで、よく車の中などで聴いていたら自然と好きになっていました。家でCDやライブDVD、グッズを集めたりしていましたが、これまで一度もライブには行ったことがなかったのですが、いつかは大好きなMr.Childrenのライブに行ってみたいと思っていました。

そんなとき、ファンクラブ会員に送られる会報で、Mr.Childrenがファンクラブツアーをするというのを知りました。Zeppという、小さなライブハウスでライブを行うというので、入れる人数が約二〇〇〇人と、とても倍率の高いライブでした。駄目で元々、と思いながらエントリーしましたが、当落発表の日が待ち遠しくてたまりませんでした。

そして当落発表の日、恐る恐るメールを見ると、「当選」の二文字が：嬉しくて嬉しくて、家中を跳ね回りました。そしてライブ当日：昼から新幹線に乗ってライブが行われる大阪へと向かいました。会場付近には、抽選に外れた人が「同行させてください」と書いてあるチケットボードを持って立っていて、「当たったのはすごいことなんだ」と改めて思いました。

ライブは、本当に言葉が出てこないくらい最高でした。

素敵でした。普段、画面の中でしか見たことのないMr.Childrenが、すぐ目の前にいて、自分の大好きな歌を歌っている：涙が滲みましました。より一層、Mr.Childrenが好きになりました。

そしてなんと！五月に広島で行われるMr.Childrenのライブも当選しました！今からとても楽しみです！  
大好きな音楽に触れながら、勉強も頑張ります…。

## 最近思うこと

岡山芳泉高校二年 安井 佑果

高校生としての生活のタイムリミットがどんどん近づいてきている…。今思えば高校に入学してから「今」まで本当にあっという間だったなと思います。私は高校入学当初、内気でおとなしくて人見知りでいろいろな人との間に自分から壁をつくってしまったていました。そんな私を変えてくれたのは一年生の時同じクラスになったある一人の女の子でした。その子は明るくて積極的で誰に対しても思ったことは何でも言うような子でした。その子と話すようになって

たきっかけは何だったのか全然思い出せないのですが、二人で遊ぼうと向こうから誘ってくれたので二人で遊ぶことになりました。その時にたくさんいろいろなことを話していて「佑果は自分にバリア張りすぎ。佑果が思つとるほど周りにいる人は怖い人でも悪い人でもないよ。そんなんじや大人になってやってけないよ。」と言われました。本当にその通りだなと思いました。それから私は少しずつ勇気をもってクラスの女子と話すようになりました。すると、本当にその子の言っていた通りでみんなとてもいい子ばかりで今までよりもずいぶん世界が広がり楽しくなりました。それに友達の輪が広がると困っている時に助け合いをできる人が増えたので、もつと早く行動できていたらよかったです。なと思いました。その子のおかげで今の私の生活は以前より充実していて本当に感謝しています。これからももつと一社会人として成長していきたいです。

今年は一正会の夏の研修も秋の調理実習も冬のもも行けませんでしたが。本当はともともも行きたかったのですが……。特に夏の研修はいろいろな人と仲を深められる大チャンスだったのにととてもショックです。だから私は今、一年生のことを全然知りません。早く一正会に行つてたくさんの人と仲良くなりたいです。また同級生にも半年くらい会ってないので早く会つていっぱい話したいです。とても

とても会いたいです。

最近、家においても学校においても悩みがつきなくて正直少し疲れたけどこれが私に与えられた試練だ、と思つて頑張つていこうと思つている今日この頃です。

## 部活と勉強

玉野光南高校二年 三宅 晟

いつもやまびこの原稿のネタになるのは部活と勉強がやばいことぐらいしかありません。今回も前回の続きというか同じようなことを書きます。

部で代替わりをしてからキャプテンが決まらなと書きました。が、一応キャプテンは僕がやることになりました。顧問の先生と部員とのパイプ役や、部の活動内容を考えたりまするので、はつきり言うとき少しめんどうさいです。それに、約十人ほどの部活とはいえど、一つの集団をまとめるというのは難しいことです。「キャプテンは自分じゃないほうがよかつたんじゃないか？」と思うこともよくあります。しかし、部の皆はちゃんとついてきてくれるし、一度

自分達で決めたことなので最後までやり遂げようと思います。  
す。

さて、僕ももうすぐ三年生になるので、部活にばかりかまけてもいられません。以前に勉強を定着させると述べましたが、実はまだ全然できていません…。逆に勉強しないことが定着しているような気がします。頭ではやろうやろうと思っっているのですが、気付いたら時間が経っていて、「明日やろう…。」になってしまい、負の連鎖が続くのです。わかってます、「明日やろうはバカ野郎」なんです。誰かモチベーションの上げ方を教えてください…。

部活と勉強だと、ついつい部活の方に力をいれがちになります。確かに目の前にあることを一生懸命やるのは大事です。ですがそれだけではなく、もっと先のことを見据えて、今自分が何をすべきか考えることも大切なことだと思います。そして、僕が勉強できるように応援よろしくお願いします。

## 二〇一四年と二〇一五年

岡山朝日高校二年 藤原淳平

年も明け、ついに最初の入試まであと一年をきりました。そのためだんだんと入試を意識する人も増えてき、自分も負けていられないなと思います。さて今回は去年のこと、また今年のことをまとめたいと思います。

まずは去年の話。去年はいろんな事がありました。一番に浮かぶのは朝日祭です。一年生の時もあつたとはいえ、やはり朝日祭は一年で最も記憶に残るものだと思います。更に朝日祭の中でも印象に残っているのは朝日祭三日目の応援合戦です。毎年二年生は体育祭で応援合戦をするのですが、この練習に文化祭の準備も重なっているためなかなか大変でした。しかし、その分クラス全員で頑張るのは今思い返すとなかなか楽しかったです。また来年、三年生が行う仮装行列ももっと楽しみに思えます。

次に思い出すのはこのやまびこでも前回書いた修学旅行です。修学旅行ではいろんなことが学べました。特に大学訪問では大変貴重な話が聞けてよかったです。その他にも東京観光なども知らない街を自分たちで色々調べて

観光するワクワク感がとても楽しかったです。

それでは次は二〇十五年、今年の話をしたと思います。まあ今年といってもまだ一ヶ月も経っていないのですが、それでも印象強いのはセンター入試です。去年はそう大事のように思えなかったのですが、今年は全く別のようには思えました。もう一年もないんだということを実感しました。そこで最初にも書きましました通り、自分も他の人と競っていききたいと思います。これが今のところ言える二〇十五年のことです。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金のご支援をありがとうございます。今年もお力添えをお願いいたします。

## 二年生を振り返って

古城池高校二年 酒井彩夏

私は二年生になって夏休み前ぐらいから塾に行き始めました。学校での数学の授業に、ついていけなくなったことと、苦手教科の英語を得意教科に変えたいと思ったことが理由で行き始めました。数学は一年生の時と比べると本当

に難しくなっってびっくりしました。特に数Ⅱの三角関数と数Ⅲは難しいです。今は塾の先生に分らない所を質問して説明してもらおうのでよく理解できます。この調子で数学を苦手教科にしないように頑張りたいです。英語は文法の復習と単語を覚えることを中心に塾で勉強しています。英語は塾に行く前は一番苦手だったのに、先生の言うことを素直に聞いて勉強するだけでどんどんテストの点数が上がっていききました。今では、クラスで一番いい点数が取れるぐらい得意になりました。正直、自分でもここまでできるようになるとは思っていなかったのですが、すごく驚いています。三年生になってもこの調子でもっともっと英語を得意にできるように、努力したいと思います。

二年生を振り返ってみると、本当に色々なことがありました。前半に書いたように塾に行き始めたこともそうだし、文化祭で一位をとれたこともそうだし、修学旅行にも行ったりしました。楽しい思い出がたくさんある一年になりました。よかったです。四月からはよいよ三年生になるので志望校に合格できるよう気を引き締めていきたいと思えます。

## 努力が報われるとき

倉敷青陵高校二年 岩 田 真 央

私は部活動で卓球をしている。一月中旬から二月上旬にかけて、三週連続で試合があった。私はその三つの試合で気付かされたことがある。

私は卓球に対して、自分でいうのもなんだが、とても熱心に取り組んできた。なぜなら、自分の技術はまだまだ顧問に認められるようなものではないからだ。高校一年のころから、一生懸命やってきたつもりだったが、いざ試合に出ると、何も出来ない自分に腹も立ったし、顧問にもダメ出しばかりを受けた。とてもつらくて悔しかった。そのことが自分の中で大きくて、先ほど述べたように熱心に今回の試合まで取り組んできた。

「強くなるにはどうしたらいいのか」という問いの答えを自分なりに必死に考えた。たどり着いたのは、基礎を徹底すること。私はフットワークを息が切れて苦しくなるまで毎日行い、そしていつも一点にドライブを打ち、決定率を上げていった。サーブも回転をしっかり考えた。そうすることで、自分のプレーが日々丁寧になり、そして着実なもの

になっていくのが感じられて、うれしくなった。

しかし、現実には厳しかった。昨年十二月にあった団体戦でのこと。女子は六人しかおらず、試合にはだれがでもおかしくない状態だった。私ももしかすると出させてもらえるかな、と内心緊張していた。しかし、どこと試合をするにも、自分の名前は出てこなかった。これほど悔しいことはなかった。なぜなのか。泣きたいほど悔しかった。その悔しさで、どんなにがんばってもダメなのではないか、という気になり、練習もいやになった。

でも、まだ自分はやれる。きつともう少しふんばればいける。と自分に言い聞かせて年が明けてさらに一生懸命練習をした。

いよいよ三試合中一つ目の試合の日になった。また団体戦だった。今日こそは、とあの時と同じ緊張感を持っていた。部長に、

「今回はたまおますよ！」

と言われた。とてもうれしかった。しかし試合結果はいま一つ。力は半分ほどしか出せなかった。でも今までの試合とは何か違う感覚だった。手応えがあったのだ。

次の週の試合の日がやって来た。団体戦と個人戦があった。私はランクが上の人と大事なところで戦った。私が負けるとチームが負けになる。とても緊張した。でもそんな

時頭をよぎったのは、いっぱい練習をしてきた日々だった。気付けば勝っていた。その勢いで、個人戦もとても良い結果を残せた。

三つ目の試合は、たくさん強い選手が出る一番大切な試合だった。個人戦で、負けたらそこで終わり。一回戦は私とほぼ同じほどの相手だった。一セット目は相手のミスですぐに取れた。二セット目から相手の流れになってしまい、八対十であと一点でセットを取られてしまう状況に何度も陥った。しかし私は今までとは違った。打つても入る。そんな自信が自分を押ししてくれた。そうして、フルセットの結果、勝つことができた。二回戦もすんなりと勝てた。自分の中では十分満足な結果だった。

努力が報われるとき。私はこの三つの試合で分かった。それは自分が窮地に立たされたときに自分を押ししてくれる自信がわいてくるときなのではないか。つまり、簡単には実感できない。実感するのは報われている時ではなく、その後で確信する。私はこの三つの試合でそのことを発見した。そのことはこれからの人生でも自分を押ししてくれる自信となってくれるだろう。

## 姉

岡山東商業学校二年 合田 紗也

前までは、そんな頻繁に連絡を取り合っていなかったが、最近何かと連絡を取り合うことが多くなった。

この間も、「ちょっと今から電話していい!？」と急に連絡が来た。話の内容は至って普通の感じで、恋愛のことだったり、学校のこと、愚痴というか不満とか。弱音も吐いたりする。

姉は私が中学から高校にあがると同時に、岡山から金沢へ飛んでいった。私はテレビの天気予報で、他のところは何もないのに金沢はどの時間帯も白い雪だるまのマークがついているのを見る度に、「何であんな遠くて寒くて知らない未知の場所に行ったんだらう。」と、ずっと思っていました。でも、そこは姉の学びたいことが学べる場所であるし、知らない場所に、ひょいっと行ってしまふ姉の行動力は本当に尊敬しています。

小さい頃、私の中では私と姉は機嫌のいい時しか仲よくない印象があるのですが、時が経てば、落ちついてケンカなく話せるようになるんだなあと思いました。

親にも友達にも、やっぱり話せないことはたくさんあって、でも誰かに聞いてもらいたくて、そんな時に結局最後に行きつくのが姉妹だし、姉妹は最強だと思います。いつもは口に出して言うことはないけど、密かにこう思っています。

いつか姉妹で海外旅行したい!!

## 新人戦を終えて

倉敷古城池高校二年 吉川 智也

一月十、十一日に三年生が引退して初めての県大会がありました。年明けの初戦で不安と緊張で試合の前夜、布団に入ってもなかなか眠気がこずに焦ったのを覚えています。初戦は絶対勝つとチーム全員が決めた目標でした。相手は城東高校で、昨年に練習試合を何回かさせてもらっていました。その時いつもとても団結力のあるチームだと思いました。

試合当日、自分自身とても緊張してハーフタイムのアップの時には全く声が出ませんでした。城東高校の勝つとい

うオーラと観客の多さに圧倒されてアップを終えても他の人と話すことができませんでした。でも、部員の人たちや保護者の方々が「緊張するな。」や「頑張れ。」と声を掛けてくれたので、試合の前半は楽にプレーが出来て、後半では自分のベストプレーが出来たと思います。

結果はチームみんなが粘り強く試合終了のブザーが鳴るまでやったお陰で勝つ事ができました。

二回戦目は、商大附属高校としましたが大差で敗れました。でも、今回の大会を通して前よりも多くのチームの課題が見つかりました。夏の最後の試合までの四ヶ月を大事にして一勝でも多く一点でも多くなるような練習をしていきたいと思います。

## 二年生零学期、高一の冬に思うこと

倉敷青陵高校一年 井上 真実

いつもお世話になっています。新年を迎え、一年生もあと残り少しになってしまいました。高校に入学してから色々なことがあったけど、今まであつという間だった気が

します。一年前の自分は入試前で、まだ進路が決まっていなかったと思うと懐かしいです。大学入試まであと二年。中一の時はそんなことは特に考えていませんでした。でも今回は既に目標を持って日々がんばらなければいけない頃です。(遅い?) 去年はテストで安定した思うような点数が取れなかったのも、もっともって目標に向かってがんばりたいと思います。この一年で勉強に対する忍耐力は鍛えられました。(膨大な課題と予習のおかげ...) 私は要領が悪すぎて、時間の浪費が多いと指摘もされたので今年克服して、要領の良い人間になりたいです。自分には絶対負けたくありません。決意新たに、革命的な一年にすることを誓います。(ちよつと大げさですが)

「イヤイヤやつても自分の人生 喜んでやつても自分の人生 どうせやるなら喜んでやろう」受け身から前向きへということとで夏期研修会の時に修養団の久世先生がお話をされましたが、何事も前向きにとらえることの大切さを何回も実感するようになりました。例えば、夏休み前には授業の内容にあまり関心が持てず、面倒だなあと思ってたやう気になれないこともあったのですが、研修会後からどんなことに対しても大げさなくらい「おもしろい、すごいなあ」と思うようにしたら、だんだん授業も楽しいと思えるようになったのです。興味を持てるようになると、テスト

勉強もがんばることができ、点数が上がってきました。何事も前向きにとらえれば、得られるものがあり、自分もかわることができのだと思います。夏期研修会でこんなためになるお話をきくことができて良かったです。

他に最近思うことは、自分はまわりの人に支えられていて一人では生きていけないのだということです。十二月に体調不良で一日学校を休んでしまった時に、友達や先輩、先生が「大丈夫?」と声をかけてくれたり、くださったりしました。授業のノートやプリントを見せてくれたクラスメートがいました。ほんの小さなことかもしれませんが、私はとてもうれしく感じました。同時に自分は相手のことを思ってた行動できているだろうか、もっとだれかのために気を遣った行動ができるようになりたいと思いました。

そして最後に、どんな事に対しても限界を決めつけずに努力することは大切だということです。もう無理だと思たらそれ以上は上に行くことができないと思うからです。勉強も部活も今の状態に満足せずにもっと上を目指してがんばりたいです。

## 先輩との最後の試合

玉島高校一年 名 田 怜 央

十一月ラグビーの「甲子園」である全国高校ラグビー大会の予選が美作で行われた。

この大会は、先輩たちにとって最後の公式戦となる。

僕は二十三人のメンバーに選ばれた。

メンバーに入って一番に感じたことは、この試合にかかる先輩たちの想いだった。朝練から今までとは比べものにはならないくらいの緊張感。僕はついていくので精一杯だった。午後からの練習もタックルやヒットの部分は今まで以上に強く厳しくなっていた。

だけど先輩たちは一日一日の練習を楽しんでいるように見えた。

十一月一日、予選が始まった。初戦を勝ち上がり、準決勝で大一番と言われた倉敷工業との試合。

今年、倉工との試合は、負けてばかりだったのでとても不安だったが先輩たちもっとプレーしたいと思ひ僕にできることを一生懸命やり切った。

倉工との試合が始まった。始まってすぐ相手に攻められ

ゴール前での攻防が続いた。

しかし、そこを最初から目標にしてきた『タックル』で防いだ。三点リードされて前半が終わり後半、玉島は攻めた。じりじり相手ゴールに近づきトライ。七対三で勝ちこした。そのままゲーム終了の笛がなった。その時は、泣きそうになった。

そして決勝戦、相手は津山工業、試合前の円陣、キャプテンの掛け声、グラウンドに出ていく先輩たちの姿は、とてもかっこよかった。

試合はからも負けてしまった。でも、先輩たちがベンチに帰ってきたときの表情は今でもはっきり覚えている。

この試合中に骨折してしまった先輩が涙をこらえながら僕のところに来て

「来年は頼んだで、花園行ってくれよ。」

と声をかけてくれた。そんな先輩をみて自分は泣いてはいけない、準決勝の時の先輩みたいに嬉し泣きをしようと思めた。

三年生の先輩たちには本当に感謝している。ラグビーの基本を教えてくれ、楽しさを教えてくれた。

来年は先輩たちの想いを引き継ぎプレーしたいと思った。

## 「国語力」で乗り切れ！

岡山一宮高校一年 守 時 優 里

薄暗い早朝、自転車にまたがり白煙を上げながら駅に向かう。見渡す風景は、あたり一面が真っ白な霜で覆われている。一年生も残すところ、あと僅かとなった。

本を読むことが大好きで、通学途中や暇を見つけては読んでいる。普段、ESS部では、英会話を楽しんだり、外国の文化を学んだりしている。この一年生の二学期、私はALTや英語教諭と会話をするだけでなく、英語力を高めるために全国高校生ディベート大会岡山県予選会に出場した。私のチームの結果は残念ながら下位の成績で、全国大会への夢は断たれた。とても良い経験ができ、自分の知らない世界を垣間見た。今は、英検に向けて語彙力を上げる努力をしている。

学校の成績は、語学の方が芳しく、専門の数学や物理がやや足を引っ張り、私の人生を脅かしている。中学までは特に苦労もなく解けていた数学が、この一年の積み重ねで、なかなか進度についていけず、応用力のなさが露呈してしまった。

二年生からは理数科の専門分野の授業が増える。特に、設備の整った環境で「化学」が学べるのが楽しみだ。沢山の基礎実験を通して、さらに知識を深めたい。また、論文の書き方や研究の手順を一から学び、大学に入学しても研究が続けられるようにしたい。

一年で満足のいく結果が得られなかった教科は、今からその原因を探し徹底的に理解できるまで時間を割きたい。このことは、成績全体の底上げを図ることに繋がる。

私は、いつも「国語力の向上がすべての教科の伸びに繋がる」と信じている。これからの一年を、自分の信念で乗り切りたい。次回の報告で、進歩した状況がすらすらと書けるようにありたい。

まだまだ寒い日が続きますが、いくら寒い日が続いても春がやって来ない年はない。朝晩の通学も、私の成長に、よい影響をもたらしている。厳しいことに耐える力、我慢する力、それらを継続する力が、私の未来を明るくする。あと二年で、その途中経過の発表が待っている。その日を胸に、日々精進したい。大学合格が、私の夢へのスタートライン。

## 部活動

岡山城東高校一年 濱田実苗

高校生活が始まってからもう一年経ちますが、私にはた  
くさんの思い出ができました。その中でも、今回は特に部  
活動について書きたいと思います。

私の通う高校にはたくさんの部活動があるため、優柔不  
断な私は、ほとんどの部活動の最初の部会の日が過ぎても、  
どこに入るか決められないでいました。そして、もう決め  
なければと焦る思いから、最初は考えもしなかった管弦楽  
部に入部し、楽器はバイオリンになりました。しかし、楽  
譜もまともに読めなかった私にとって、毎日何時間も黙々  
と練習をすることは本当に苦痛でした。どうしてもバイオ  
リンが楽しいと思えなくて、最初はずっと、いつ辞めよう  
かということばかり考えていました。同じパートの友達や  
パートリーダーの先輩に相談して他の部活動に見学に行っ  
たこともありましたが、結局辞めることなく夏休みになり  
ました。バイオリンパートは十三人いたのですが、希望者  
だけが参加する海外研修会があり残ったのは四人だけでし  
た。そのうち一人は部活を辞める相談をした子だったので

すが、その子はバイオリンパートの中で誰よりもやる気が  
ある子で、初心者ながらとても上手でした。その子に教え  
てもらいながら曲を練習しているうちに、だんだんバイオ  
リンが楽しくなり、皆が研修に行っている間に頑張ってみ  
ようかな…と思うようになりました。そして夏休み前とは  
人が変わったように真面目に練習した結果、夏休み後の席  
決めのオーディションでは、一年生の中で一番前の列に選  
ばれることができました。たまたまかもしれませんが、そ  
のことがきっかけでさらに練習を頑張るようになり、今で  
はバイオリンが大好きになりました。

あの夏休みに、あれほど頑張っていなければ、一緒に練  
習に付き合ってくれた友達が居なければ、今の私はいない  
でしょうし、本当に感謝しています。そして、本当に管弦  
楽部に入って良かったと思います。

## 高校生活一年目を振り返って

岡山城東高校一年 小林陽一郎

時が経つのは早く、もう高校に入って一年が過ぎようと

していません。この一年を振り返ってみるといろんなことがありました。

まず行事について考えると淡路研修や、翠緑祭などがありました。高校に入学して一番印象が強かった行事はやはり翠緑祭です。中学校の時文化祭がなかったので生まれて初めての体験だった翠緑祭はすごかったです。学校中の展示や劇も良かったですが、オープニングは、想像をはるかに上回るものでした。全生徒がペンライトを持ってライブのような雰囲気で行った後すごく疲れたことは今でも覚えています。

勉強や部活について振り返ってみると、勉強は徐々に難しくなってきました。内容もそうですが、一時間目は特に部活の朝練をした後なので起きて授業を聞くので精一杯です。二年からは理数学類に行つてさらに勉強が難しくなると思うので、頑張つて勉強していきたいと思います。三年生がセンター試験や二次試験の勉強をしている中、自分は志望大学が決まったので三年生になつてからあせらなくていいように今の内からしっかり勉強したいと思います。一年生で学んだことを生かして今年も学校生活を過ごしていきたいです。

最後になりましたが八正会の方々今年も一年よろしくお願ひします。

## 新たな発見

岡山操山高校一年 藤原 淳 美

四月に入学してから気がつくともう一年近い時間が経ちました。初めてのことで余裕がなかったあの頃とは違つて今では生活リズムにも慣れ、周りのことに気が配れるくらいにまでなりました。勉強と部活の両立をはじめ、友達との交流や将来についても考えることができとても充実した日々を送れていると思います。今まで知らなかった人達の新たな一面が皆でてきているのでとても楽しいです。

しかしそういった時間が過ぎていく中で私には気がかりなことが一つあります。それは自分がこれからどこへ向かつていくのか、全くもつてそのビジョンが見えないことです。あと三ヶ月もすると私は二年生になります。二年生では、高校卒業後どうしていくのかということを決めなければいけません。困りました。私はまだ漠然としたことしか考えていません。自分がやりたいことをしたいと思つていられるけれど、興味があることが多くて悩んでしまいます。でもたった一つ、生物に関わることをしたいなと決めていました。そんな中で私はある日担任の先生からある一冊の

本を借りました。その本は一〇〇ページにも満たないようなものでしたが私にとっては非常に興味深いものでした。ある生物に関するものなのですがその生物は私がこれまでに見たことがない程美しくさらに最強なのです。私はその生物のおもしろさや不思議さにすっかりとりつかれてしまってもう大変です。このようなことがあって、私は知らなかったことを知る喜びや楽しさを感じることができませんでした。また自分のことを話すことで周りから自分にとって大切なことを教えてくれるんだと驚きました。この本を通して私は生物がとても好きなんだと改めて知ることもできました。

あと三ヶ月で高校生活二年目に突入します。ここからが私の将来に向けての正念場だと思うので勉強をすることはもちろんのこと、自分の将来を見据えた上で今までよりも充実した生活を送れるように努力したいと思います。そのためにもたくさん「新しい発見」ができればいいです。

## 一年をふりかえって

就実高校一年 栗山 恵 輔

高校に入学して早一年が経とうとしています。光陰矢のごとし、とはよく言ったもので時間の流れはとても速く、あっという間に過ぎ去ってしまいました。

この一年間はとても充実していたと思います。部活では部員は七人と少ないですがバスケットボール部で活動しています。うちの学校はバレーボール部などの部活動がさかんでなかなか体育館が使えませんが、その体育館が使える時間を最大限活用できるように努力しています。また、先生がいないうちにも、自分達で考えて練習できるか、ということも念頭において活動していきたいです。

さて、学生の身分といえば勉強ですが、目下、模試にむけて勉強中です。高校に入ってから授業は中学とはがらっとかわり、教科数も増えてとても大変ですが、楽しくもあります。もともと興味があった日本史、世界史は、覚えるのがつらいですが、心を躍らせて授業を受けています。二年次には世界史をとる予定ですが、今後機会があれば日本史も学びたいな、と思っています。そんなことを考え

ているひまがあつたら、となるのが前回のやまびこでもふれた英語と数学です。数学はまだよくなってきましたが、応用ができなかつたりします。応用も基礎の組合わせですのでコツコツとがんばりたいです。そして英語ですが、やはり苦手です。特に駿台模試の過去問を解く時に自分の英語力のなさを思い知らされます。また、三つある英語の教科の中で特に英語表現の成績が芳しくありません。まずは語彙を増やすこと、です。リスニングにも慣れるようにして、目指せ英検二級！です。ついでに漢検二級も目指したいです。

と、大言壮語もいいところですが、すぐにその四文字を有言実行に変えてみせます。少し話がそれてきましたね。学校での勉強は、部活と課題に苦しめられながらも充実しています。週に三回ある補習が一番あつてよかつたと思えるかもしれないです。センター試験や各模試の過去問を解いたりとよい経験になります。まずは目の前の模試に目標をすえて、頑張りたいです。

さて、一生に一度の高校一年生も残り二ヶ月。二年生に向けてつつ走っていききたいです。最後に、八正会様へ。秋冬と参加できませんでしたが来年はできるだけ参加したいです。来年もよろしく願います。三年生の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 初めての定期演奏会

山陽女子高校一年 影 山 都 花

去年の十二月二十七日に、ミュージックコースの生徒全員による定期演奏会がありました。定期演奏会というのは、毎年十二月に、ミュージカル専攻、声楽専攻、ピアノ専攻、楽器専攻などミュージックコース生全員が、日々頑張つて練習した成果を発揮し、見に来ていただく方々に笑顔と感動を与える演奏会です。

私は、今回が初めての定期演奏会でした。夏休みぐらいから本格的に練習を始めて、毎日のように学校に練習をしに行っていました。最初の方は、台本を配られたり、ダンスの振り覚えたりするだけで、役を任せられるという責任感など感じませんでした。

しかし、だんだん練習を重ね、本番も近づいてくる度、自分が今どんな立場なのか、すごく危機感を感じるようになります。そして私は、その日から、自分と向き合い、自分が任せられた役柄をどんな風に演じるか、どのようしたら見ている人に笑顔と感動を届けられる事ができるのか、真剣に考えるようになりました。そして、ついに本番当日

です。客席にはたくさんのお客様が入っていて見ただけで緊張しました。

しかし、今まで頑張ってきたことを無駄にはしたくなかったので、自分なりに、一生懸命演じようと思いました。本番では、皆で気持ちを一つにし、最高の舞台になりました。家族や友達も「よかったよ。すごくおもしろかった。」などの声をかけてくれました。その時私は、少しでも皆さんに笑顔と感動を届ける事ができたのかなと思いました。

私にとって初めての定期演奏会は、さまざまな事を学ばせてもらった、とてもいい経験となりました。この貴重な経験を生かし、今年の定期演奏会、そして、将来に向かって、自分の夢を叶えるために日々前進していきたいと思えます。

## 飼っている犬について

総社南高校一年 吉川 朋之

今回のやまびこの作文には、僕の祖父母の家にいる犬のことについて書きたいと思います。その犬の犬種は、

ジャバリア・キング・チャールズ・スパニエル」という長い名を持つ犬です。一般的には略して「キャバリア」と呼ばれています。

犬種紹介では必ず、「攻撃性がなく、他の人やペット、見知らぬ人に対してもすぐに仲良くなる社交的な犬で、しつけもしやすい。」と書かれています。本当にその通りで、見知らぬ人が来ると最初は吠えますが、すぐに尻尾を振り、愛嬌を振りまきます。

僕が小学一年生のときの春休みに飼いはじめて、今、九歳になります。人間で言うと、五十歳くらいにもなります。

飼いやすいキャバリアですが、病気になるやすい犬種でもあります。僕の犬も、いろいろな病気になって、薬を毎日飲んでいきます。

僕の犬はボール遊びや、天井からゴムをつけておもちゃで遊ぶのが好きです。自分でぐるぐる回っておもちゃを振り回して遊んでいます。とても面白いです。僕らが「ボールは？」と聞くと、自分がボールを置いたところを覚えていて、そこで吠えます。ボールを投げると一目散に走って取りに行き、ボールをくわえて持ってきて、またボールを投げてくれと吠えて催促します。

高齢になってきたので、これからは寝るばかりで、遊ぶことが少なくなるかと思うと少し寂しい気がします。こ

れからも大切な家族の一員として、大切に、楽しい時間を通していききたいです。

## Restart

岡山操山高校一年 熊谷舞佳

高校生活も早九か月が終わり、全体の四分の一が過ぎました。高校一年生が、本当にあつという間に過ぎて行っているのを実感しています。さて、私は、今年度の夏の原稿では高校生の間の目標として、三つの目標を文字にしました。目標を立てたからには、振り返り反省し、再度目標に向かって進んでいくことが必要だと思います。なので、ここを新たに一歩進むための良い機会とし、素直に自分自身と向き合いたいと思います。

夏に書いた目標の一つ目は、部活を最後までやり遂げるということでした。部活は続けていて、今は夏とは比べ物にならないくらい熱中しています。部活を最後まで続けることには自信がありますが、上手くないかかない苦しい場面にしつかり向き合い前に進むこと、勉強との両立については

まだ力不足なので、しつかり力をつけることを追加目標とします。

二つ目の目標は様々なことに意欲的に取り組むことでした。高校一年生の一年間、色々なことに挑戦し、多くのことを新しく学ぶことができました。この目標は高校三年生まで心に留めて、高校生活に挑戦しなかったことへの後悔を残さないようチャンスを大切にしていきたいです。

三つ目の目標は進路についてでした。数回の模試や文理選択を終えて、志望学部の系統は教育学系統に決め、志望大学・学部もだいたい決まりました。職業についてはまだ曖昧なままですが、そこはゆっくり考えていこうと思います。ただ、勉強は今以上に頑張らなければならないので、規則正しい生活リズムと学習習慣の確立を新たな目標とします。

今回、夏の目標を振り返り、追加目標、新たな目標を立てたことで、再び目標に向かって進むことができるような気がします。自分の立てた目標を達成できるよう、これらの日々をより充実させていきます。

## 一年を振り返って

瀬戸高校一年 檜原勝也

高校に入ってから今日までの約一年間を自分の中で振り返ってみると、あつという間の一年間でした。この一年の中で感じたことは高校生活は厳しいということです。中学校とは違い授業の内容も難しいスピードもとても早いのでおどろきました。自分の高校での平日の勉強時間の目標は最低でも二時間ですが振り返ってみるとその最低目標の勉強時間もとれてない日が多くありました。なので今のところ成績が悪いです。よく考えると自分もあと二年後には大学入試なのでしっかり自覚をもって一日一日を大切にしたいです。

この一年間でオープンキャンパスや学校の授業で大学について調べたり自分の将来について考える時間が多くありました。自分には今まで目標や夢がありませんでしたが、その機会によく考えてみると少しは自分のやりたいことや目標を見つけることができました。やりたいことや目標があるほうが勉強や学校生活も充実すると思うので目標に向

かってがんばっていききたいと思います。

二年生になるともっと勉強も難しくなったり大学のことを考えることが増えると思うのでがんばっていききたいと思っています。

## 無駄遣い

明誠学院高校一年 黒田尚輝

僕は本屋に行くのが好きで、学校が終わるといつも岡山駅の本屋に行きます。そこには家の近くの本屋よりもっと多くの本があります。だから、本を探すのにも苦労します。僕はだいたい学習参考書のところに行くのですがいろんな種類の本があり、買うときに迷います。しかも、電車がくる十分前とかでも本屋に行ってしまうので、急がなくては電車に間に合いません。そして、レジに列を作っていることもあるので、いつもあせります。でも、本を買うときはしっかり選びたいので、何回も同じ本のところへ行き吟味しています。本を買うのは、とても楽しいので、けっこう買ってしまいます。だからお年玉もすぐになくなりそうで

す。

今年は無駄遣いをなくしていきたいです。本当に必要だ  
と思うものだけを買います。買ったあとに「やっぱり、い  
らなかった。」と後悔することのないようにしていきたい  
です。でも、本屋に行ってしまうとつい何か買いたくなる  
ので、なるべく行かないようにします。

## 変化

津山高校一年 戸田 花

三学期もあと一カ月ほどになったので、この一年を振り  
返ってみることにしました。

高校生になって変わったこと、やはり勉強の量が圧倒的  
に増えたと思います。毎日、予習・復習のサイクルを保つ  
ために、自分の趣味に費やす時間が減りました。休日も課  
題が多く、嫌でも机に向かわなければならず、一日三十時  
間あればいいのと思ったこともしばしば……。それでも、  
将来の為にと自分をふるい立たせてがんばっています。

もう一つは、家事をするようになったことです。反抗期

も治り、親のことを考える余裕ができました。助け合いな  
がら生活することで、会話も増えたなあと感じます。あと  
二年で親と一緒に暮らすこともなくなるので、今のうちに  
しっかり手伝いをしておこうと思っています。

他にも変わったことは色々ありましたが、悪くなったこ  
とは改善し、良くなったことは来年度も続けていこうと思  
います。

## 近況報告

OB 大西智和

私事ではありますが、古くからの夢であった事が社会人三年目で叶おうとしています。

「家を買って、親に恩返しするんです！」  
会社の先輩は笑いながら、

「まあ、頑張れや。」

といかにも私が冗談を言っているように軽く流していきました。

さぞ、設計図を見た時は驚いたでしょう…。

持家でなかった実家を見ながら、

「いつかは私達の家が欲しい…。」

とつぶやく母親。新入社員の頃は実家に帰る度につぶやいてたと思います。

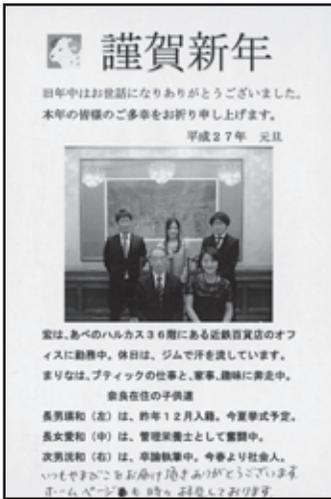
まわりくどくなりましたが、私、お家、買います。この年齢でまさかの。でもここまで来れたのは、色んな人との巡り合わせあってこそのように思います。

歓送生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この機会に皆様にお伝えしたい事は、「親への恩返しは早くやるべ

きである」という事です。家を建てただけでは、まだまだ恩を返せてとは思えませんが、昔からの母と僕の夢がお互い元気な内に叶えられる事は、今出来る最大の恩返しであると感じております。

皆様も何か探してみてはいかがでしょう？

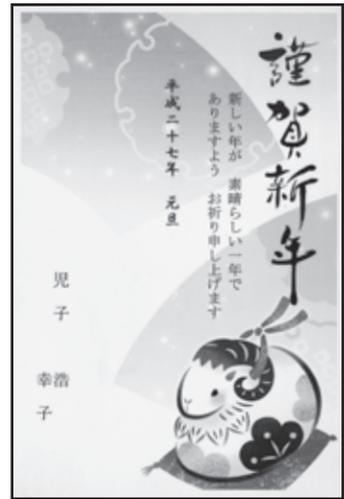
# 年賀状



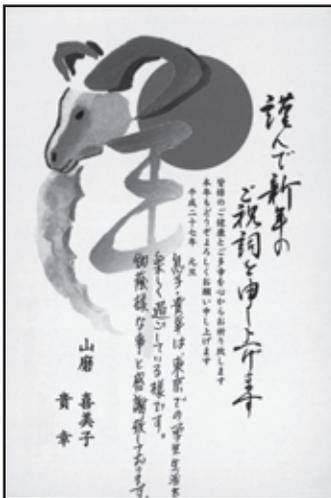
●昭和49年度卒 長田 宏



●平成13年度卒 近藤 弥生



●昭和37年度卒 兒子 浩



●平成25年度卒 山磨 貴幸



●昭和60年度卒 垣内 顕治



●平成1年度卒 松本 幸代



●平成2年度卒 吉澤 悦子

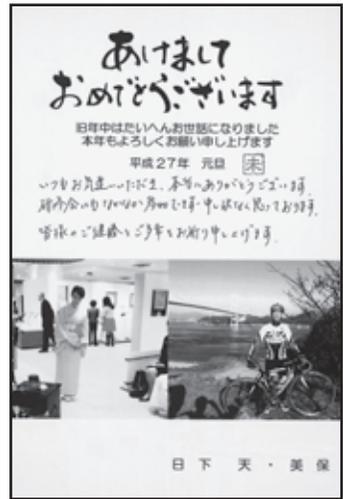
# 年賀状



●昭和55年度卒 宮田 正美



●平成6年度卒 宮川 由佳子



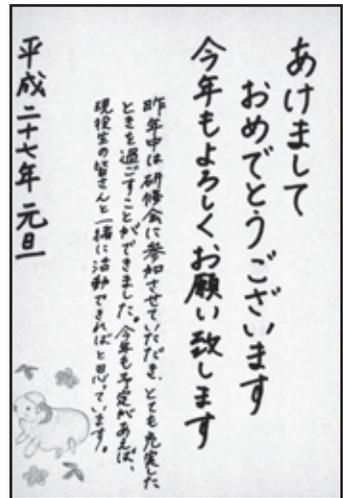
●昭和62年度卒 日下 天



●平成26年度卒 後藤 眞依



●昭和47年度卒 難波 弘行



●平成24年度卒 後藤 千尋

## ～ 事務局よりお願い ～

- ① 会員登録がまだの方は、是非登録をお願いします。登録には、パスワードが必要です。パスワードは事務局が発行しますのでご連絡下さい。
- ② 卒業や結婚、転勤等で引っ越された場合は、必ず事務局まで転居先をご連絡下さい。巻末に「住所変更連絡はがき」を添付していますのでご利用下さい。また、八正会のホームページ (<http://www.hasshoukai.or.jp/>) のお問合せ欄からメールで送っていただいても結構です。

八正会

検索

## 編集後記

今年の正月元旦・二日はとても寒かった。だが、元旦は最上稲荷、二日は奈良三社詣バスツアーに参加。春日大社・三輪明神大神神社・橿原神宮と何を神頼みするのか？と言われる位初詣をすることができた。

春日大社は平成十年十二月春日山原始林を含む「古都奈良の文化財」として、ユネスコの世界遺産に登録されている。小学校の修学旅行時の見学地として、何度か訪れたことはあるが、初詣としては初めてだ。

大神（おおみわ）神社は、古来本殿は設けずに拝殿の奥にある三ツ鳥居を通し三輪山を拝するという原初の神祀りの様を伝える我が国最古の神社だ。たくさんの初詣客が拝殿に至る道を行き交っている。なぜか、祈祷殿前に兎の置物が安置されており、これをなでようとする参拝客が行列を作っている。時間が切迫しているにもかかわらず、「ここしかないよな。」という考えで、なでなで。

そして、三社目は、橿原神宮。第一代神武天皇をお祀りしている。広い境内に背景に畝傍山。夕刻となりお参りをする頃にはとっぷりと日も暮れてしまったが、参詣者はまだまだ続いている。甘酒とぜんざいをいただき、帰途につく。

新しい年に今年への期待や願望をこめ、自分の誓いを立て、神前でお祈りをする。八正会の皆さんも、初詣せずとも、心の中で、今年の抱負をもったことでしょう。日々精進してまいりましょう。

【若草山で鹿せんべいを鹿にあげたY U A】

発行責任者  
発行者

落司量則

公益財団法人 八正会（トンボ育英事業団体）

郵便番号七〇〇一〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

株トンボ内 電話〇八六一二二三一〇三一

協同精版印刷株式会社

平成二十七年三月

印刷所